

# 子母口貝塚(川崎市)

しぼくち

ここは子母口公園





説明板が立っている/ここに多摩丘陵にある貝塚の中では、最も古い貝塚である子母口貝塚があった



子母口貝塚は、多摩川の沖積地を望む台地上に位置している/この貝塚遺跡は、縄文時代早期の子母口式土器を出土した標式遺跡として、考古学史上広く周知されている/当時の海岸線は、縄文海進の影響を受けて貝塚の位置する台地下、約1kmぐらいにまで迫っていた

## 子母口貝塚の貝層と発掘調査のあゆみ

子母口貝塚の貝層

←現在の地表面

---

表土・耕作土  
貝の破片が混じる

---



貝層  
2〜3層の貝層  
カキ・シジミ・ハマグリ・ハイガイなど  
子母口式土器・石器などが出土  
今から約8,100年前

---

暗褐色土層  
燃系文系土器が出土

**1927・28・30 (昭和2・3・5) 年 / 大山 柏 (大山史前学研究所) による調査**

大山柏は大山巖元帥の次男、陸軍少佐で考古学者。縄文時代の編年学的研究方法を貝塚の発掘調査によって試みようとして子母口貝塚を3回調査しました。子母口貝塚で最初の本格的な発掘調査でした。

▲大山柏発掘当時の子母口貝塚(遠景)

▲大山柏(大山史前学研究所)による調査風景  
◎向かって右側が大山柏(資料提供:阿部芳郎氏)

**1930 (昭和5) 年 / 岡 栄一 (橋樹考古学会) による調査**

地元の医者で考古学研究者の岡栄一が主宰する橋樹考古学会は、大山史前学研究所が調査した第1貝塚の隣接地を発掘調査しました。

**1935 (昭和10) 年 / 酒詰 仲男 (元同志社大学教授) による調査**

酒詰仲男は神奈川県内370ヶ所の貝塚調査の一つとして、1935(昭和10)年に子母口貝塚第3貝塚を発掘調査しました。

**1936・37 (昭和11・12) 年 / 山内 清男 (元成城大学教授) による調査**

縄文時代研究の大家である山内清男は、大山史前学研究所の発掘資料から「子母口式土器」の型式設定を行ない、自らも第2貝塚を発掘調査して「子母口式土器」の内容を充実させました。

**1941 (昭和16) 年 / 三森 定男 (川崎市史編纂事業) による調査**


三森定男は、川崎市史編纂事業の一環として子母口貝塚全地点を対象に発掘調査を行い大きな成果を挙げましたが、その成果を報告する前に戦災で貴重な出土品は灰燼に帰してしまいました。

**1967 (昭和42) 年 / 渡辺 誠 (名古屋大学名誉教授) による調査**

盗掘などで消滅のおそれがあった第3貝塚を記録保存するため、渡辺誠の指導の下で川崎市教育委員会主催による発掘調査が実施され、子母口貝塚では最初の正式な学術報告が発表されました。

**1986 (昭和61) 年 / 川崎市博物館資料収集委員会による調査**



川崎市市民ミュージアムに子母口貝塚の貝層剥離標本を展示するため、江坂輝彌(慶應義塾大学名誉教授)の指導の下で、川崎市博物館資料収集委員会が第2・5貝塚の発掘調査を実施しました。  
\*この解説板左側の貝層剥離標本がその時の1つです。




川崎市博物館資料収集委員会による調査▶  
◎中央が江坂輝彌

**2006 (平成18) 年 / 川崎市教育委員会による調査**

子母口貝塚の将来的な整備・活用に向けて、その基礎データとなる貝層の分布範囲などを把握するため、川崎市教育委員会が第1貝塚の確認調査を実施しました。

▲川崎市教育委員会による調査      ▲第1貝塚の貝層堆積状況



子母口貝塚の地点

2007 (平成19) 年11月 川崎市教育委員会



子母口貝塚は、標高26メートル前後をはかる台地の縁辺に五地点(A～E地点)に分かれて散在する、いわゆる地点貝塚であることが明らかになった(その後、E地点は明治時代にA地点から建物の基礎材として運ばれた二次堆積貝塚であることが確認されたので、現在では実数四箇所からなる地点貝塚として把握されている)



この公園は第一貝塚/この右手前方にも説明板が立っていた



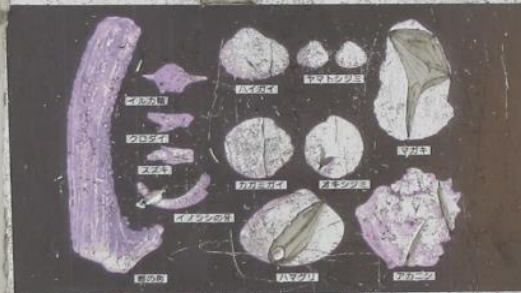


# たちばなの散歩道 子母口貝塚

この辺りには縄文時代早期（約8000年前）に生活した人たちが、食べた貝を捨てた「貝塚」があります。貝塚はこの公園の他にも、丘のまわりにちらばっていますので、丘の上には縄文時代の人々が住んだ村があったと考えられます。貝塚から見つかった貝の種類から、貝をとった場所は川が海に流れ込む河口から海岸の砂浜の辺りということがわかります。



貝塚のようす



貝塚から見つかった貝や骨など

このことから、当時はこの丘近くまで海が入りこんでいたと考えられます。その他にも魚や動物の骨・シカの骨をけずって作った道具や土器の破片・石器なども見つかっていますので、何を食べていたか、どんな道具を使っていたかがわかります。貝塚は縄文時代の自然や生活の様子の手がかりがつかえる、タイムカプセルみたいなですね。

川崎市高津区役所



別の角度から公園を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



## 参考ホームページ

<http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000000999.html>

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2016/06/24/183000>

<https://soubouwalk.exblog.jp/4557247/>



